

株式会社テクノマセマティカル

平成25年3月期＜第13期＞ 第2四半期決算説明会 資 料

■ Algorithm Specialist

TMC

平成24年11月20日

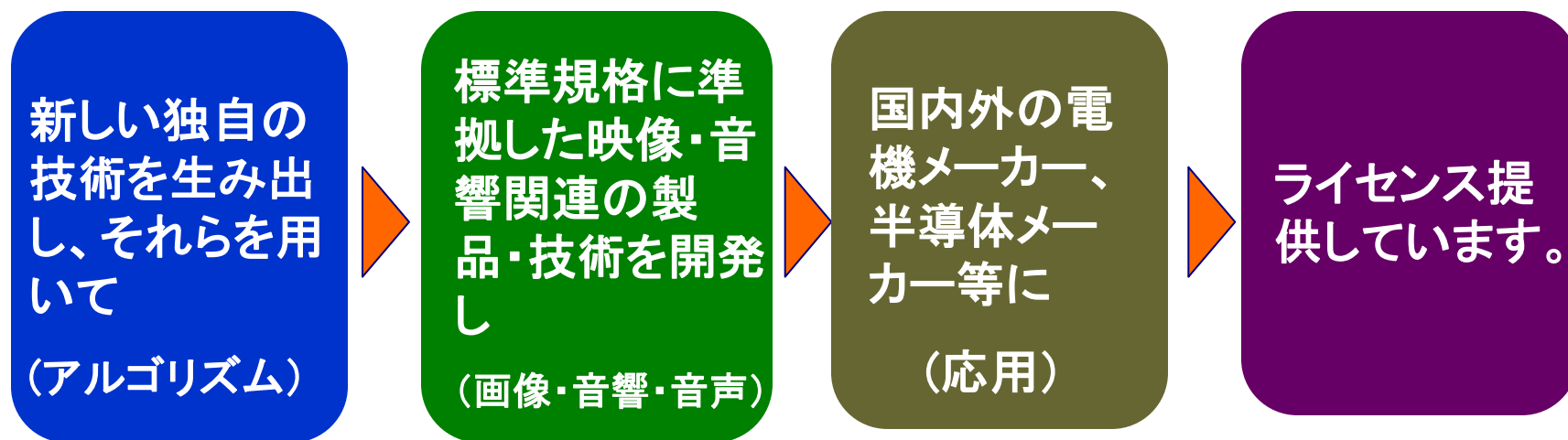
Agenda

1. 事業概要
2. 第2四半期決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 通期業績見通し
5. 平成25年3月期の課題と進捗
6. 当社技術のご紹介

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

1-1 当社の基幹業務について

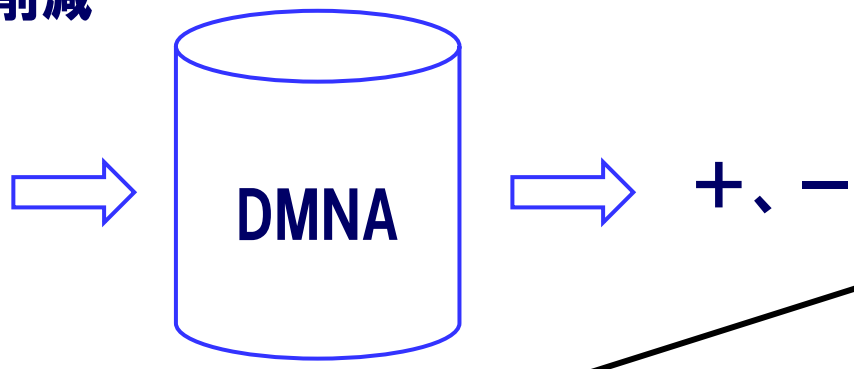


①高圧縮率、②高画質、③低消費電力量、④低遅延
を実現するデータ圧縮・伸張技術を開発、提供し続けます。

1-2 DMNAとは

<数学> 処理量削減

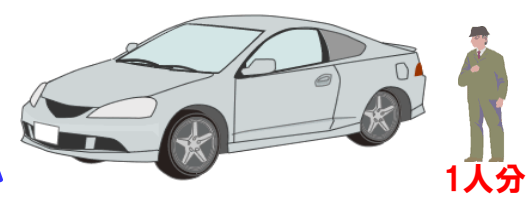
$$\left. \begin{array}{l} \text{Log (f (x) +g (x))} \\ \sin f (x) \frac{d}{dx} g (x) \\ \cos g (x) \\ \tan h (x) \\ z^{-1} \\ \int_a^b f (x) dx \\ \Sigma f (x) +g (x) \end{array} \right\}$$



<信号処理>

高速処理

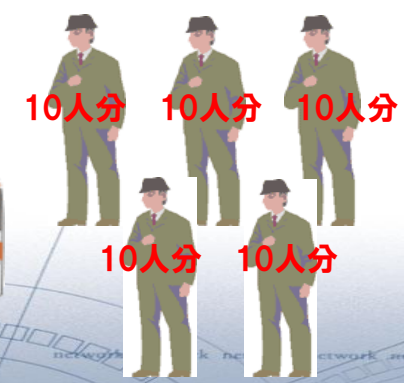
消費エネルギー削減



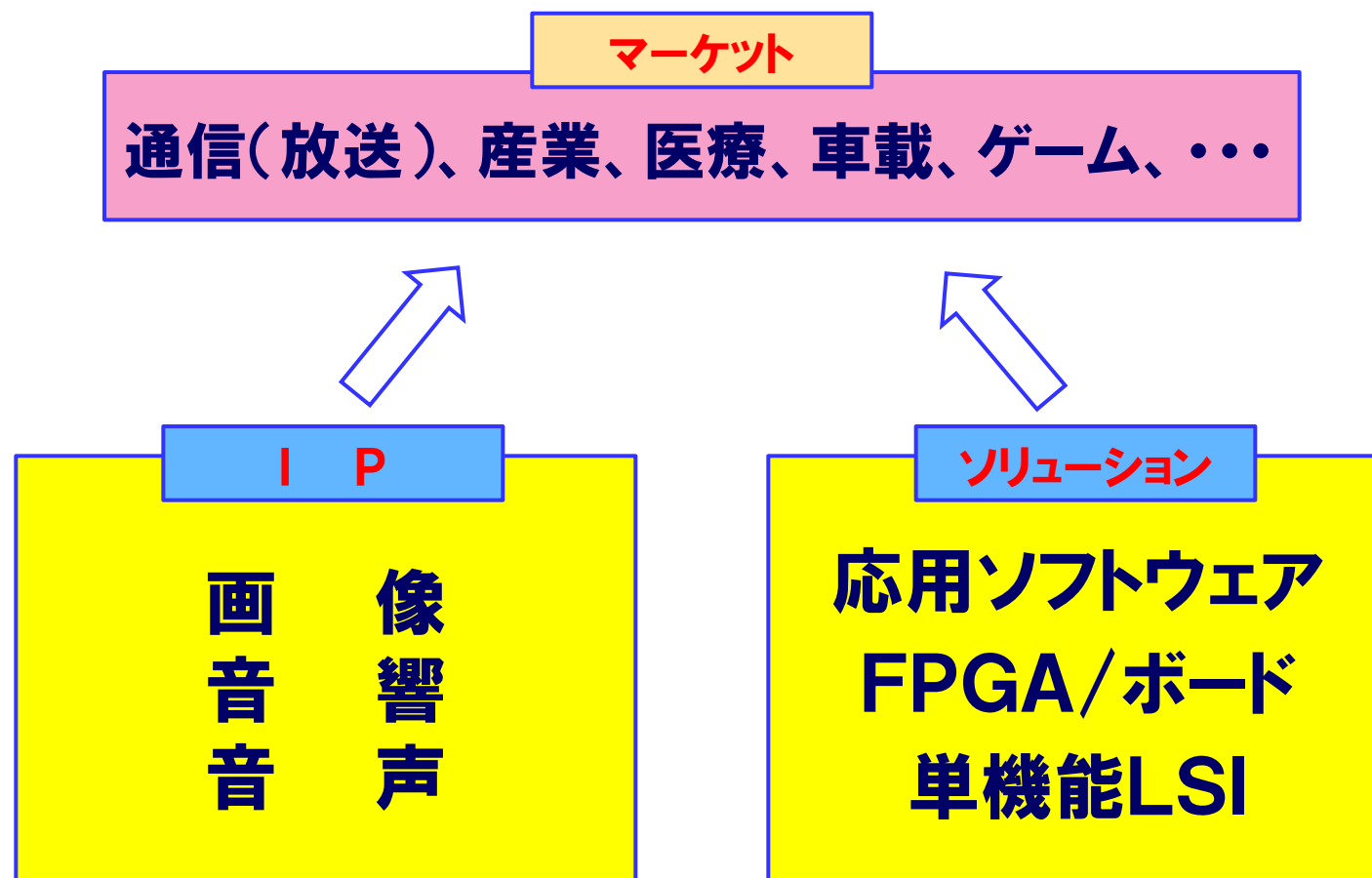
50回の処理必要

50人輸送

1回で処理



1-3 ビジネスイメージ



1-4 当社事業の特徴

1. 独自技術により差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス/ロイヤルティ・モデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

国際標準規格準拠、日本発の映像/音響製品

4. 事業領域拡大による収益力の向上

既存/新規の技術を応用したソリューション分野への展開

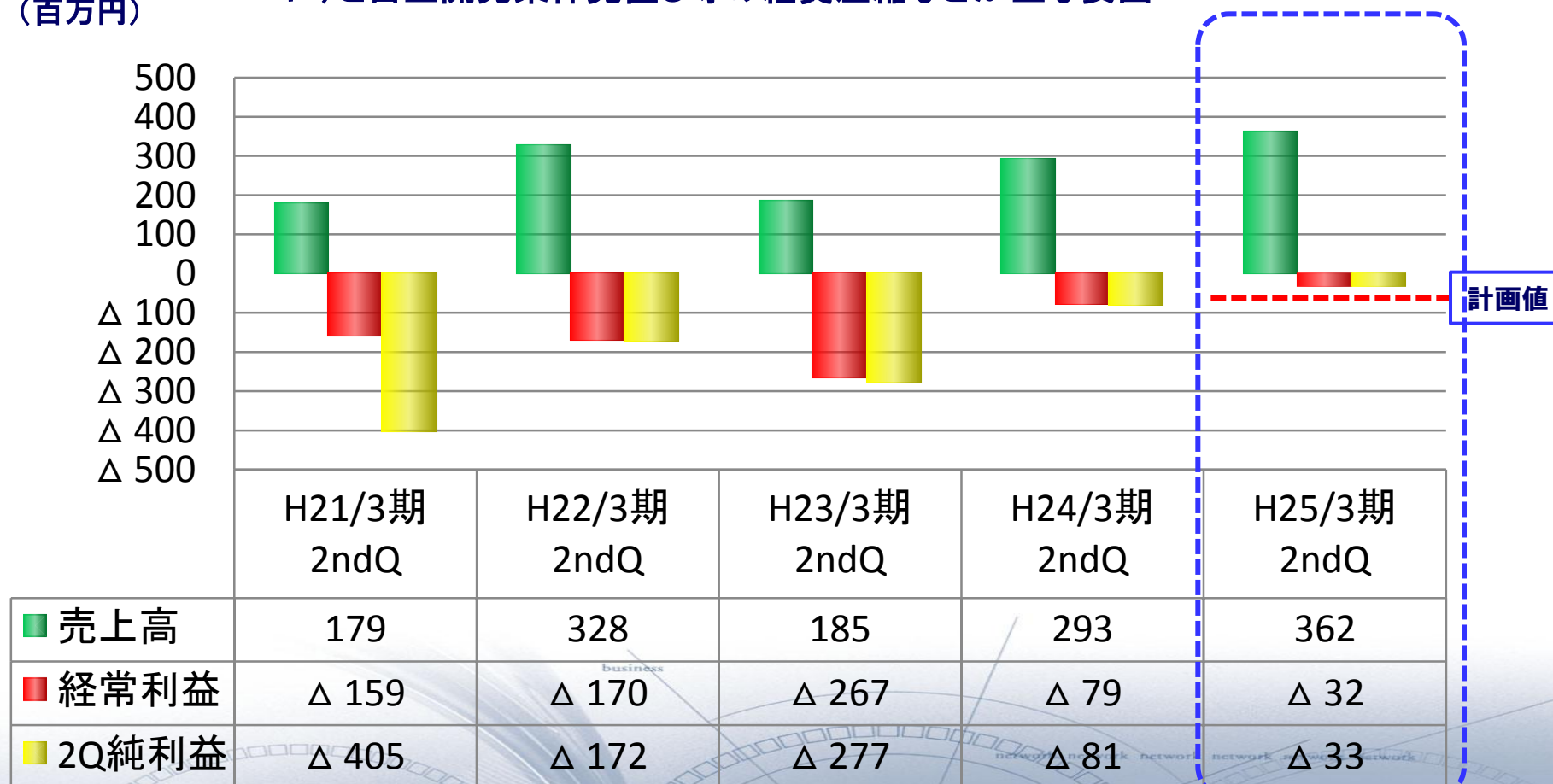
2-1 業績の推移

◆ 売上高 計画比12百万円超過

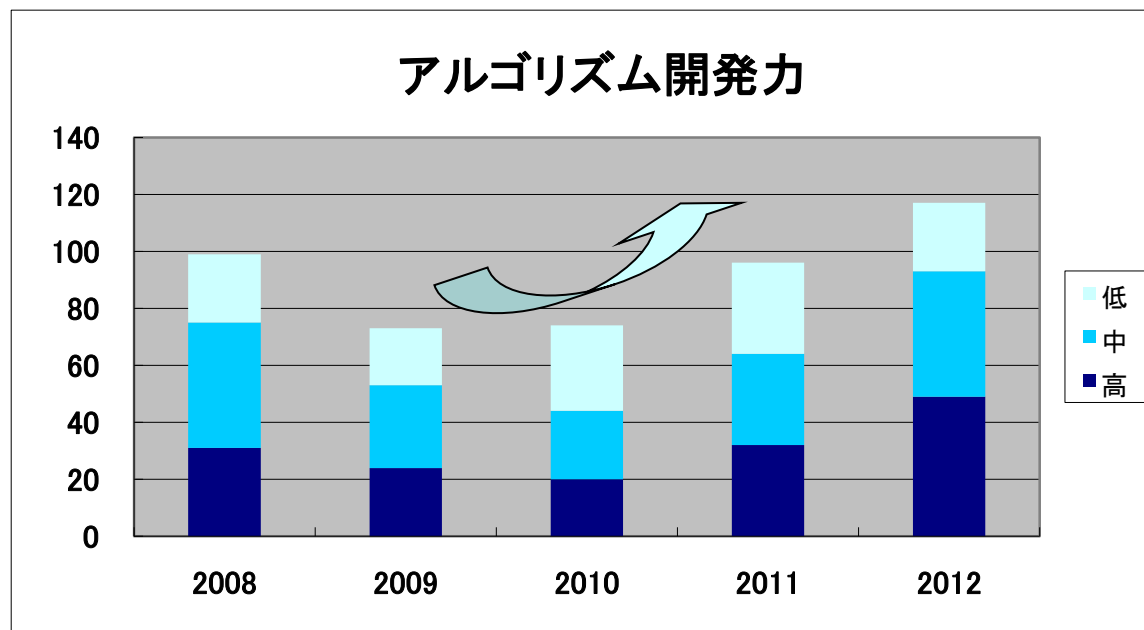
◆ 損益面 計画値より大幅改善

外注費(約30百万円)の計上期ずれ(期初計画では上期計上予定が下期計上に)と自主開発案件見直し等の経費圧縮などが主な要因

(百万円)



2-2 アルゴリズム開発力(イメージ)



業績低迷の原因の一つであった開発力の
低下が解消されて向上に転じてきた



成長の再軌道に乗りかけている！

2-3 損益計算書 (平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(単位：百万円)

	当第2四半期（累計） （H25/3期2ndQ）	構成比	対前年同期間 増減比	前年同期間 （H24/3期2ndQ）
売上高	362	100.0%	23.6%	293
売上総利益	316	87.3%	24.2%	255
販売管理費	350	96.6%	4.4%	335
営業利益	△33	△9.2%	—	△80
経常利益	△32	△8.8%	—	△79
四半期純利益	△33	△9.3%	—	△81

2-4 貸借対照表

(平成24年9月30日)

(単位:百万円)	H24/9末	構成比	対前期末比 増減	H24/3末
流動資産	3,074	96.8%	▲61	3,136
固定資産	100	3.1%	▲0	101
資産合計	3,175	100.0%	▲62	3,237
流動負債	90	2.8%	▲28	119
固定負債	7	0.2%	0	7
純 資 産	3,077	96.9%	▲33	3,110

2-5 当初業績予想との差異について

(単位:百万円)	期初予想	実績	差異額	達成率
売上高	350	362	12	103.7%
経常利益	△87	△32	55	—
四半期純利益	△89	△33	56	—

プラス面

- ◆放送局向け送受信システムを受注（前期4Q、今期1Q～3Qまで工事進行基準で売上計上）。
- ◆ほぼ5年ぶりの海外案件を獲得。今後も積極的に獲得目指す。
- ◆期初計画では上期に計上見込であった外注費（約30百万円）が下期計上に期ずれした。

マイナス面

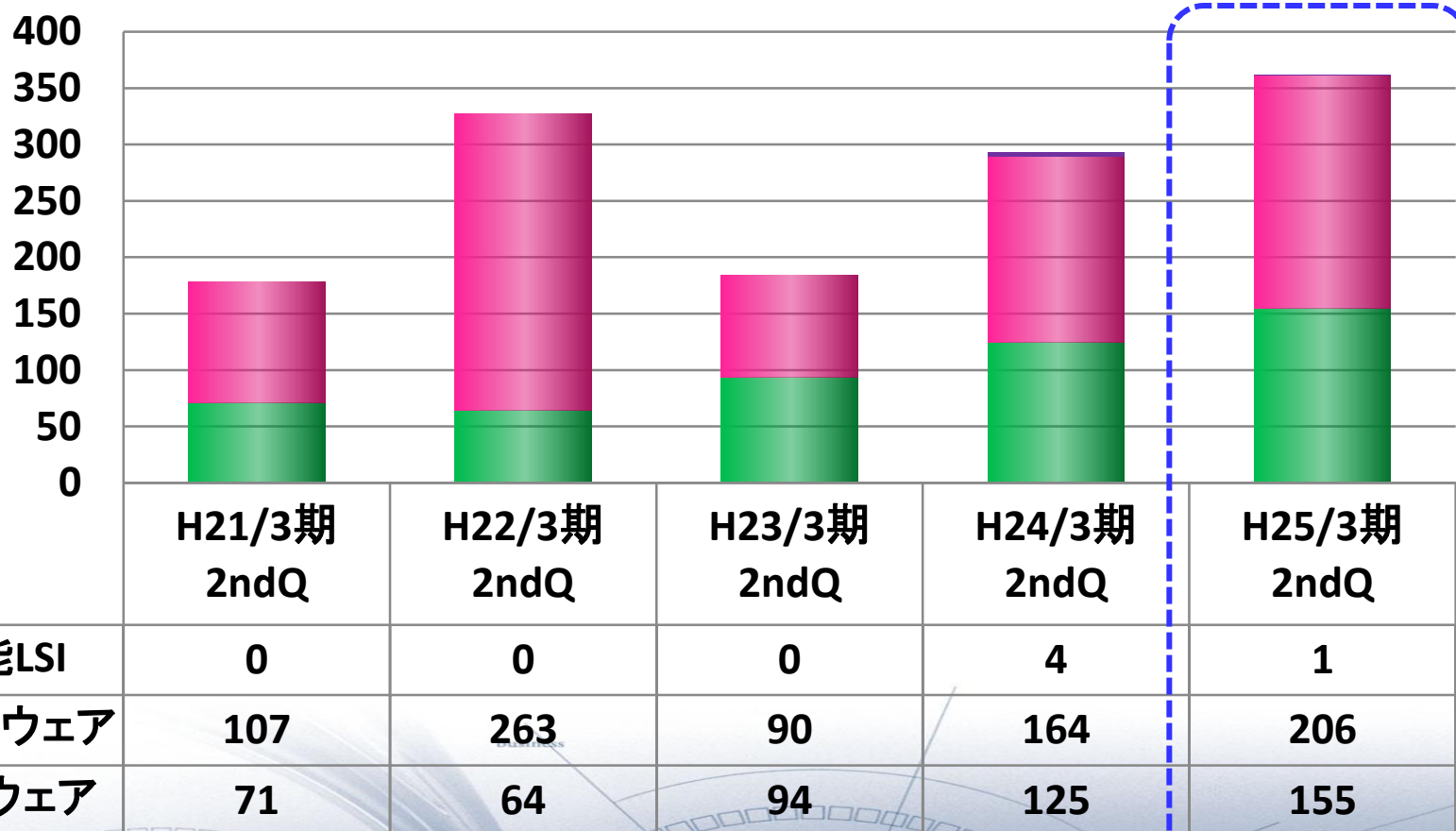
- ◆エリアワンセグ関連は、免許取得などの導入ハードルがネックとなるなど、本格普及は来年以降か。
- ◆単機能LSI（H.264LSI）関連、既存IPのFPGA化ビジネスの進展が計画よりも遅い。

3-1 売上の内訳(事業区分別)

◆ソフトウェアは前年同期間比2.4割増・・・放送局向け送受信システム、デジカメ向け音響など

◆ハードウェアは前年同期間比2.5割強増・・・アミューズメント向けV3、通信機器向けH.264など

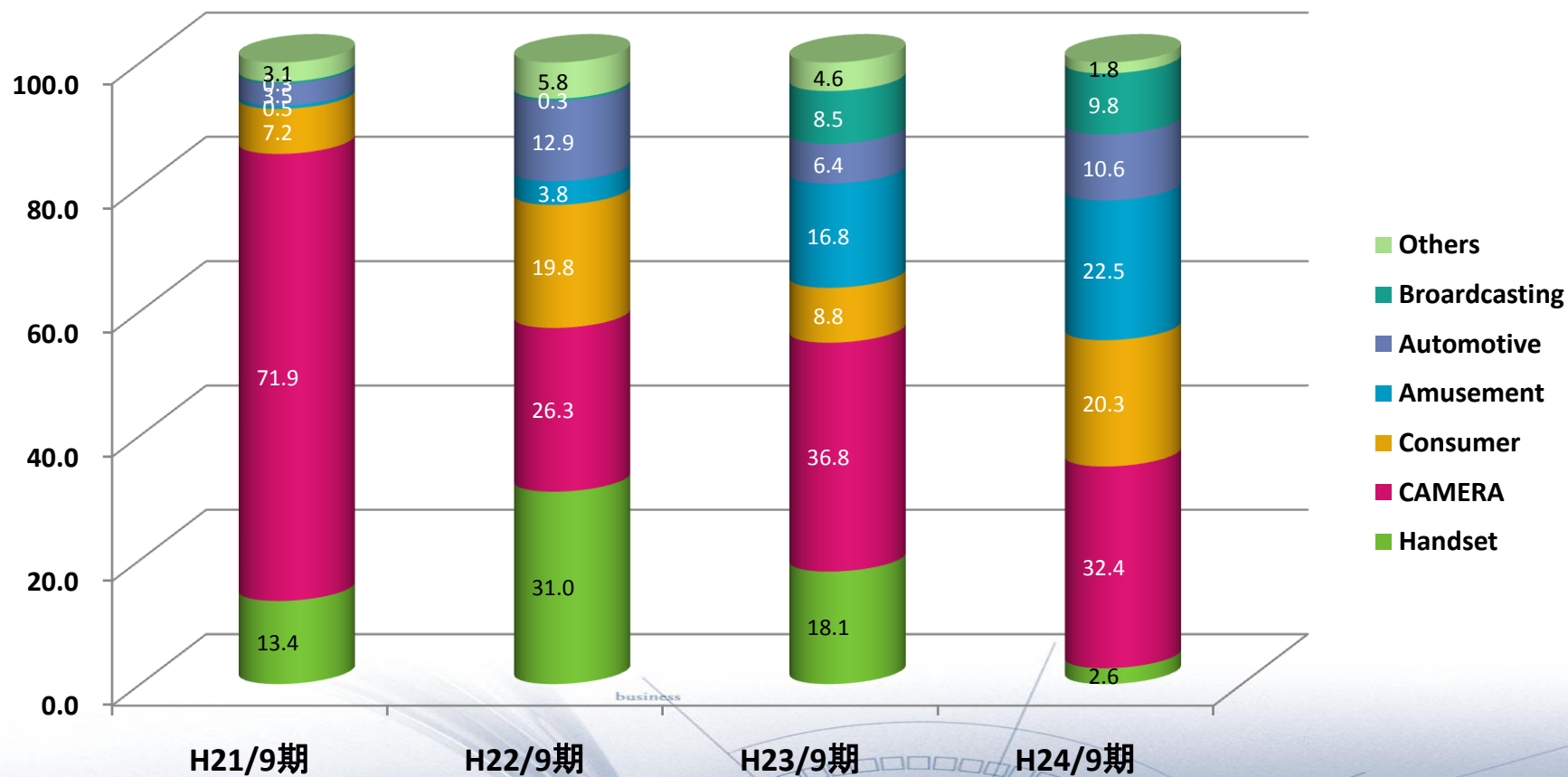
(百万円)



3-2 売上の内訳(対象市場別)

◆カメラ向けとアミューズメント向けで売上の50%以上を占めることとなった。

◆Broadcastingは放送局向け案件が好調。エリアワンセグは足踏み状態。



4-1 H25/3期 通期業績見通し

(単位:百万円)

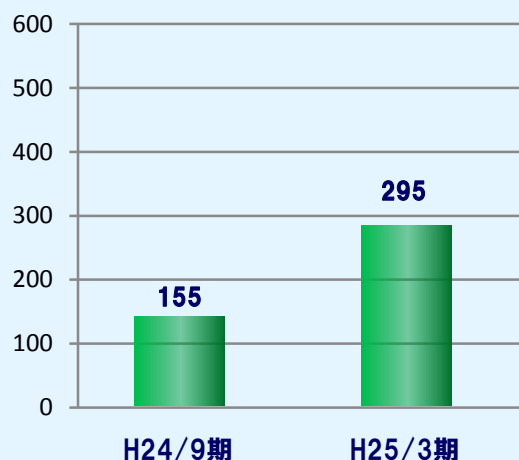
	通期予想	増減	増減率	前期実績
売上高	920	+167	+22.1%	753
経常利益	107	+115	—	△8
当期純利益	104	+115	—	△11

- ◆ ソフトウェアライセンス＝車載向け画像・音響関連など見込む
- ◆ ハードウェアライセンス＝4K2K、ロスレスなどで大型案件見込む
- ◆ 応用システム開発＝放送局向け送受信システム他、各種ソリューション関連の案件獲得見込む
- ◆ 単機能LSI＝準汎用ボード仕立てにしての販売に注力

4-2 主な増減要因

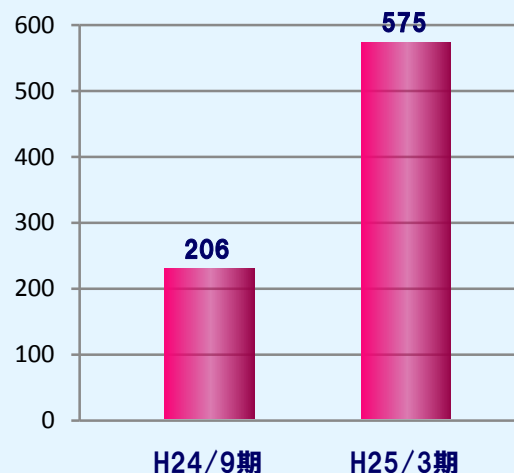
＜売上高＞（単位：百万円、H25/3期は計画値）

ソフトウェア事業



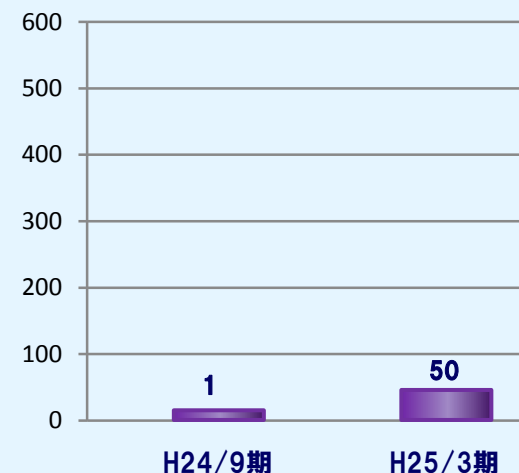
- ・ **ワンセグ、フルセグ**関連でH.264、AACなど底堅い需要を見込む
- ・ **ゲーム**関連、**車載**関連、**スマートフォン**関連もターゲットに

ハードウェア事業



- ・ **デジカメ**向けなどを中心にH.264HD、4K2Kに注力
- ・ JPEG (4Pxl/cik) で**置き換え**需要を掘り起こす
- ・ H.264、JPEGなどの**FPGA**対応ビジネスも進める

単機能LSI事業



- ・ 評価ボード、デモボードに加え、使い勝手の良いモジュール仕立てとし、**H.264LSI**の顧客獲得を目指す

5 平成25年3月期における課題と進捗

1. IPビジネスに加えソリューションビジネスへ本格展開開始

⇒ 放送局向け低遅延送り返しシステムは順調推移、
エリアワンセグ向けは需要の立ち上がりが遅れ気味

2. 営業進捗・予算管理の強化による損益黒字化の達成

⇒ 月次進捗会議により案件確度の見極めと予算確保策を確認

3. 既存技術のブラッシュアップによる差別化/優位性の維持・強化

⇒ 画質向上(H.264CV)、高速化(JPEG⇒8pxl/clock)、他

4. 新技術の開発によるマーケット・ニーズの先取り/開拓

⇒ 超解像、4K2K、ロスレス、V3他

5. 海外案件の開拓

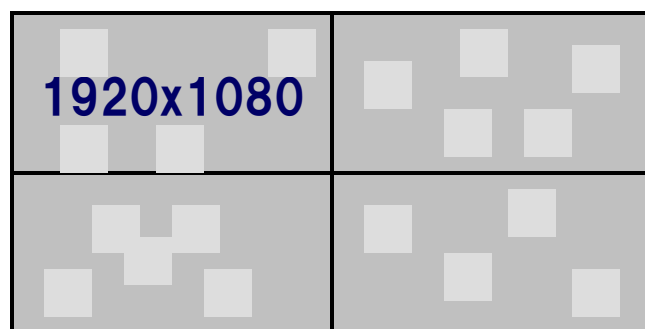
⇒ 上期1件獲得、下期は2件程度を見込む

6-1 当社技術のご紹介（一部）

TMCの4K2K技術(FullHD（30fps）の8倍の性能）

<特長>

- ・最大画像サイズ：4096 x 2160 / 60fps まで対応
- ・4K2Kの大画面を、継ぎ目のない高画質、低遅延、低消費電力で実現



↑
つなぎ目が見える



高画質でつなぎ目なし

当社製

6-2 当社技術のご紹介(一部)

①エコーキャンセラ ・スピーカフォン使用時のエコーをキャンセルし、全二重通話をクリアに行うことができます。 ・エコー消去量: 50dB (1/256)	②ノイズサプレッサ ・背景雑音を低減させ、クリアな音声信号を取り出すことができます。 ・雑音低減量: 14dB (1/5)
③風雑音低減 ・風がマイクに吹き付ける際に発生するポコポコというノイズを低減します。 ・雑音低減量: 20dB (1/10)	④ズームボイス ・狙った前方向からの音を強調し、周囲の雑音を抑えることができます。 ・雑音低減量: 16dB (1/6)

<製品別適用事例>



携帯電話のスピーカフォン通話

エコーキャンセラ

ノイズサプレッサ

風 雑 音 低 減



カーナビのスピーカフォン通話
や音声認識の前処理

エコーキャンセラ

ノイズサプレッサ

風 雑 音 低 減



デジカメの動画撮影

ズ ー ム ボ イ ス

風 雑 音 低 減

6-3 当社技術のご紹介(一部)

1. マルチメディア放送への対応

- ・防災無線システム
向けミドルウェア

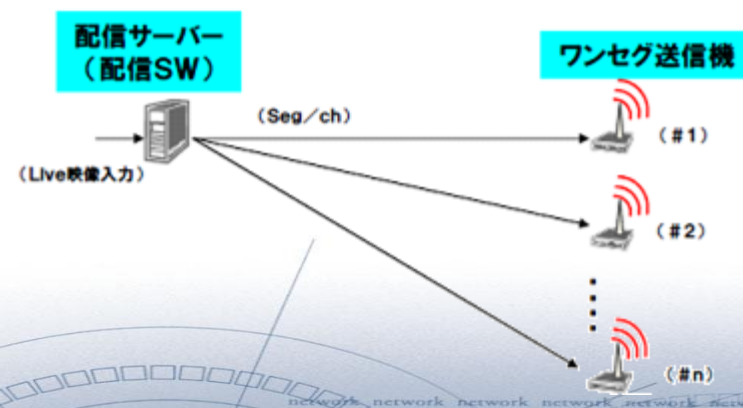
VHF-LOW帯マルチメディア放送

リアルタイム放送

ダウンロード(蓄積型)放送

2. エリアワンセグへの対応

- ・配信システム
向けミドルウェア

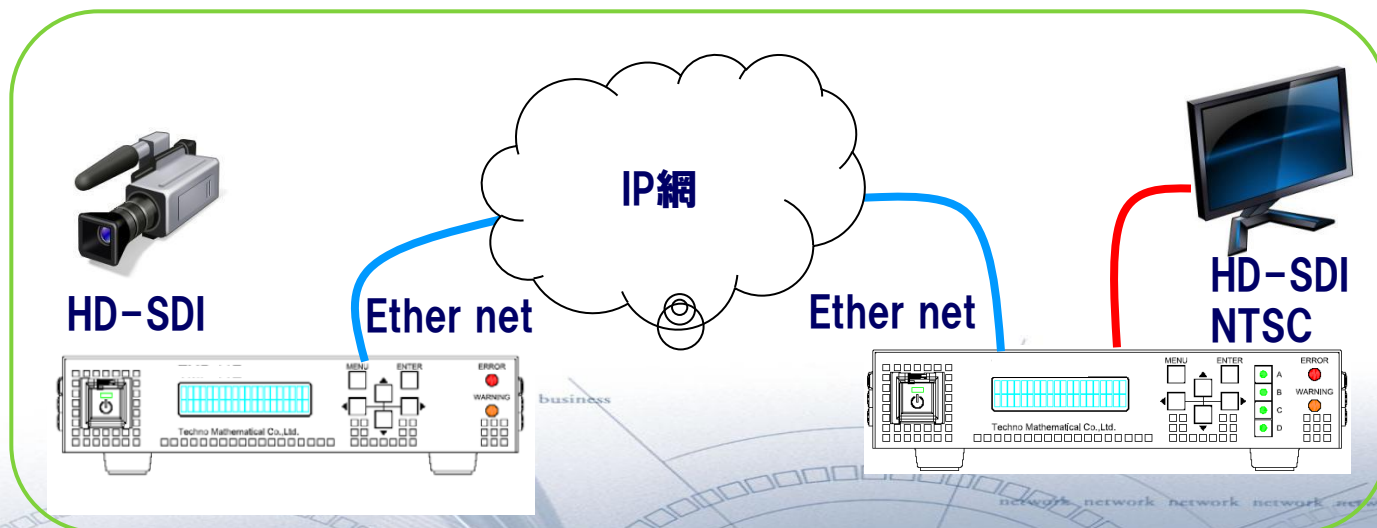


6-4 当社技術のご紹介(一部)

DMNAを用いた圧縮伸張システム

低遅延IP伝送装置

- 装置間伝送遅延: 100msec程度
コーデック間遅延: 20msec以内 (エンコード→パケット化→デコード)
- DMNAにより高画質、低消費電力を実現
- パケット暗号化などによりデータの高秘匿性が保てます
- FECなど伝送路エラー耐性機能搭載可能です
- 外部接続PCからの設定、ステータス表示ができます
- 一般IP網で伝送するため、低価格でシステム構築できます



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL:03-5798-3636 E-mail:ir@tmath.co.jp